



茎数・葉色は適正ですか？ 生育診断で、適切な穂肥に備えよう！

●7月1日の生育調査結果 と対応

平年に比べて、草丈は短く、茎数は並み（圃場によって多いところも見られます）、葉数は並み、葉色は淡いが指標並みです。高品質で良食味のつや姫を生産するために、7月10日頃の生育診断で穂肥を判断します。それまでには中干しを完了させ、適期に穂肥をできる稲姿（茎数・葉色）にしましょう。葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを行いましょう。

中干し開始が遅い圃場など

表 作柄診断圃の生育調査結果（7月1日 鶴岡市上清水）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数 (枚)	葉色(SPAD)
本年	42.3	581	9.5	39.9
平年	44.0	586	9.3	42.1
平年比差	96	99	+0.2	-2.2
指標	45.9	541	9.4	39.8

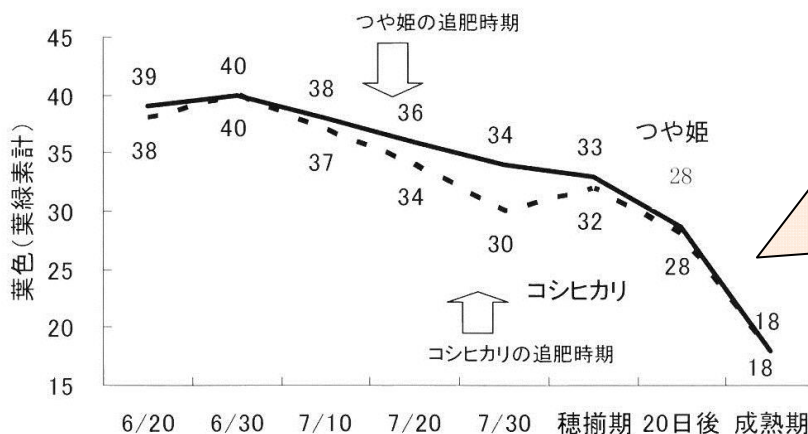
注) 平年は過去5カ年平均、指標は6/30から調整

●ケイ酸資材の積極的な活用を！

「ケイ酸資材」は、中干し後（穂肥前）の使用が効果的です。受光態勢の改善、耐倒伏性向上、登熟促進等に効果が期待され、収量アップの事例が確認されています。特別栽培の生産計画で計画している方は積極的に投入しましょう。

●生育（茎数、葉色）にあわせた、穂肥を行いましょう！

1. つや姫の葉色の推移 (図1)



つや姫の理想的な葉色推移
葉色を適正に低下（淡く）させることがポイントです。

2. 7月10日頃の生育診断

玄米粗タンパク質含有率が7.5%を超えると、「つや姫として販売できない」という、出荷基準があります。

玄米粗タンパク質含有率を適正にするため、生育量（茎数）と葉色を正しく把握し、それに合わせた穂肥の施用量とタイミングを判断することがポイントです。

特に今年は生育がやや早めです。
遅れずに実施しましょう。

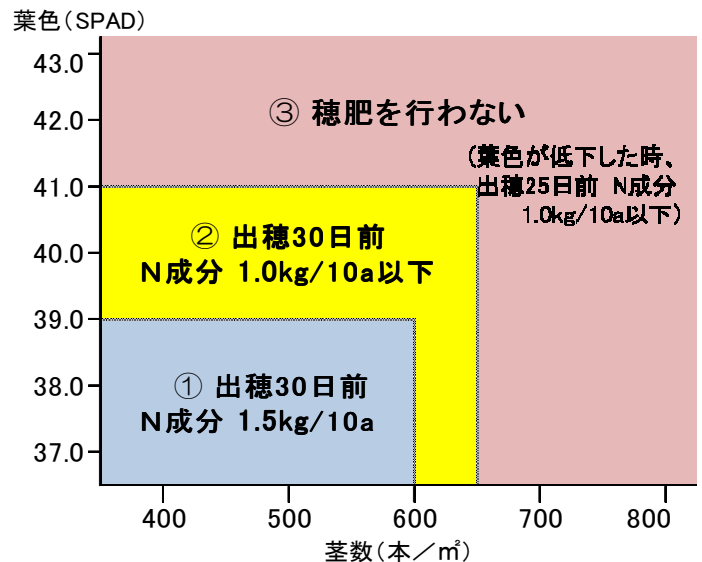


図2 7/10（10葉期）の穂肥対応
（下表の内容をわかりやすく図式化したもの）

穂肥は、**出穂30日前に窒素成分で1.5kg/10a** 行うことが基本です。

葉色が濃い圃場は、**中干しを十分に行った後**、上図・下表を参考に慎重に穂肥を行きましょう。

表 7月10日（10葉期）の茎数・葉色と穂肥対応

茎数・葉色（SPAD）	穂肥時期	穂肥窒素分量
① 茎数 600 本/m ² 以下で、葉色 39 以下	出穂 30 日前	1.5kg/10a
② 茎数 600～650 本/m ² 、または、葉色 39～41	出穂 30 日前	1.0kg 以下/10a
③ 茎数 650 本/m ² 以上、または、葉色 41 以上	穂肥を行わない	※ 注1)

注1) ③の場合、出穂25日前まで待ち、確実に適正葉色まで低下した場合は、窒素成分1.0kg/10aを上限に施用する。

注2) つや姫は、出穂前25日以降は穂肥を行わない。

参考：1株当たりの茎数の目安 70株植え：600本/m² ⇒28本/株、650本/m² ⇒31本/株

● 中干し後～穂ばらみ期の水管理

中干し後は、走り水で足跡に水がたまる程度にした後、徐々に**間断かん水**（2日湛水、2～3日落水）にします。

● カメムシ対策は万全に！

斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と見込まれます。

発生密度を減らすため、周辺の草刈りを行い、被害の軽減を図りましょう。

熱中症対策を忘れずに！

日々の体調管理に注意！

こまめに水分補給・休憩を！